

製品名: アトロフィン-1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07356**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	130kDa

抗原情報

遺伝子名	ATN1
別名	ATN1; D12S755E; DRPLA; Atrophin-1; Dentatorubral-pallidolulsian atrophy protein
遺伝子 ID	1822.0
SwissProt ID	P54259
免疫原	抗血清はヒト ATN1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 81-130

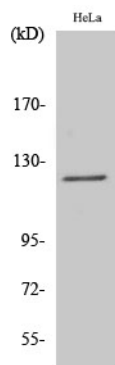
背景

歯状核赤核淡蒼球レイ体萎縮症 (DRPLA) は、小脳失調、ミオクロニーてんかん、舞踏アテトーゼ、および認知症を特徴とする稀な神経変性疾患です。この疾患は、この遺伝子内のトリヌクレオチドリピート (CAG/CAA) の7~35コピーから49~93コピーへの増

加に関連しています。コードされるタンパク質には、セリンリピート、酸性アミノ酸と塩基性アミノ酸が交互に配列する領域、および可変性のグルタミンリピートが含まれます。選択的スプライシングにより、同じタンパク質をコードする2つの転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2016年7月]、疾患: ATN1 遺伝子の欠陥が歯状核赤核淡蒼球ルイ体萎縮症 (DRPLA) の原因です [MIM:125370]。DRPLA は、歯状核、赤核、淡蒼球、およびルイス小体におけるニューロンの喪失を特徴とする常染色体優性神経変性疾患です。臨床的特徴は、ミオクロームステんかん、認知症、および小脳失調症です。本疾患は通常、10代で発症し、15代で死亡します。多型: ATN1 のポリ Gln 領域は、正常集団で高度に多型性 (7~23 反復) を示し、DRPLA および HRS 患者では約 49~75 反復まで伸長しています。伸長が長いほど、発症が早期化し、臨床症状がより重篤になります。サブユニット: BAIAP2、WWP1、WWP2、WWP3、および RERE と相互作用します。組織特異性: 脳、卵巣、精巣、前立腺で比較的高いレベルを示します。肝臓、胸腺、白血球では低いレベルを示します。、

研究分野

画像データ



アトロフィン-1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析